真鍋

利徳君

作

Ш

夜は巡り 限りなき光の東はかぎのなき光の東は

朝の静寂の中一人にて 樹林をつらぬきぬ

もう情熱もなく 涙 ながる

何を求め 真摯な魂は ほの暗き大気の底に

もはや言葉なく凍てつきて立つ 一つの心を持ちさまよいぬ

ポプラを見つめ祈りささぐ

我等が命大き魂 なれどいつの日か結びつけなん 不毛の日々はかわき過ぎ去りぬいまだあれどかすかなり 物思う我らに

四

ほのかな恋の想い胸に 真摯な理性の 輝 きにさそわれて 女性の清き美しさ

この暗さに あまりに深き心のあがき なれど結びえず 大き精神

清らかさの中我息しなん 清冷な川の流れに聞きいりてせいれいかかかながれた聞きいりて 深き森のささやき Ŧi.

静けさの中とけこみいりて 物を思わなん いつの日にか